

芸 術

(工芸 I)

発 行 者			教 科 書 の 記 号	判 型	総 ページ 数	検 定 済 年
番 号	名 称	略 称	番 号			
116	日本文教出版	◆ 日文	工 I 701	A 4	46	令和 3 年

※ 「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示しています。

1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者及び教科書の番号

工芸 I		冊数	1冊
発行者の略称・ 教科書の番号	日文701		

2 学習指導要領における教科・科目の目標等

【芸術の目標】

芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
- (2) 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
- (3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

【工芸 I の目標】

工芸の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

【工芸 I の内容及び内容の取扱い】

「内容」の概要	「内容の取扱い」抜粋
<p>A 表現</p> <p>(1) 身近な生活と工芸 身近な生活と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 身近な生活の視点に立った発想や構想</p> <p>(ア) 自然や素材、自己の思いなどから心豊かな発想をすること。</p> <p>(イ) 用途と美しさとの調和を考え、日本の伝統的な表現のよさなどを生かした制作の構想を練ること。</p> <p>イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能</p> <p>(ア) 制作方法を踏まえ、意図に応じて材料や用具を生かすこと。</p> <p>(イ) 手順や技法などを吟味し、創造的に表すこと。</p> <p>(2) 社会と工芸 社会と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 社会的な視点に立った発想や構想</p> <p>(ア) 使う人の願いや心情、生活環境などから心豊かな発想をすること。</p> <p>(イ) 使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和を考え、制作の構想を練ること。</p> <p>イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能</p>	<p>(1) 内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導については、中学校美術科との関連を十分に考慮し、「A表現」及び「B鑑賞」相互の関連を図り、特に発想や構想に関する資質・能力と鑑賞に関する資質・能力とを総合的に働かせて学習が深められるようにする。</p> <p>(2) 内容の「B鑑賞」の指導については、各事項において育成を目指す資質・能力の定着が図られるよう、適切かつ十分な授業時数を配当するものとする。</p> <p>(3) 内容の〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力であり、「A表現」及び「B鑑賞」の指導と併せて、十分な指導を行い、各事項の実感的な理解を通して、生徒が造形を豊かに捉える多様な視点をもてるように配慮するものとする。</p> <p>(4) 内容の「A表現」の指導に当たっては、地域の材料及び伝統的な工芸の表現などを取り入れることにも配慮するものとする。</p> <p>(5) 内容の「A表現」の指導に当たっては、発想から制作の確認及び完成に至る全過程を通して、自分のよさを発見し喜びを味わい、自己実現を果たしていく態度の形成を図るよう配慮するものとする。</p>

「内容」の概要	「内容の取扱い」抜粋
<p>(ア) 制作方法を踏まえ、意図に応じて材料や用具を生かすこと。</p> <p>(イ) 手順や技法などを吟味し、創造的に表すこと。</p> <p>B 鑑賞</p> <p>(1) 鑑賞 鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 工芸作品などの見方や感じ方を深める鑑賞</p> <p>(ア) 身近な生活の視点に立ってよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること。</p> <p>(イ) 社会的な視点に立ってよさや美しさを感じとり、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること。</p> <p>イ 生活や社会の中の工芸の働きや工芸の伝統と文化についての見方や感じ方を深める鑑賞</p> <p>(ア) 環境の中に見られる造形的なよさや美しさを感じ取り、自然と工芸との関わり、生活や社会を心豊かにする工芸の働きについて考え、見方や感じ方を深めること。</p> <p>(イ) 工芸作品や文化遺産などから日本の工芸の特質や美意識を感じ取り、工芸の伝統と文化について考え、見方や感じ方を深めること。</p>	<p>(6) 内容の「B鑑賞」の指導に当たっては、日本の工芸も重視して扱うとともに、アジアをはじめとする諸外国の工芸などについても扱うようにする。</p> <p>(7) 内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、芸術科工芸の特質に応じて、発想や構想に関する資質・能力や鑑賞に関する資質・能力を育成する観点から、〔共通事項〕に示す事項を視点に、アイデアスケッチなどで構想を練ったり、言葉などで考えを整理したりすることや、作品について批評し合う活動などを取り入れるようにする。</p> <p>(8) 創造することの価値を捉え、自己や他者の作品などに表れている創造性を尊重する態度の形成を図るとともに、必要に応じて、工芸に関する知的財産権などについて触れるようにする。また、こうした態度の形成が、工芸の伝統と文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮するものとする。</p> <p>(9) 事故防止のため、特に、刃物類、塗料、器具などの使い方の指導と保管、活動場所における安全指導などを徹底するものとする。</p>

3 教科書の調査研究

(1) 内容

ア 調査研究の総括表（調査結果は「別紙1」）

調査研究事項	対象の根拠（目標等との関連）	数値データの単位
a 「表現」で「身近な生活と工芸」・「社会と工芸」を扱う題材数	内容《A表現》	個
b 「表現」で「地域の材料及び伝統的な工芸の表現」を扱う箇所数	内容の取扱い(4)	個
c 「鑑賞」で「工芸の作品」を扱う箇所数	内容《B鑑賞》	個
d 「鑑賞」で「生活や社会の中の工芸の働き」を扱う箇所数	内容《B鑑賞》	個
e 「鑑賞」で「工芸の伝統と文化」を扱う箇所数	内容《B鑑賞》	個
f 「鑑賞」で「日本の工芸も重視して扱うとともに、アジアをはじめとする諸外国の工芸」の箇所数	内容の取扱い(6)	個
g 発展的な内容を取り上げている箇所数	総則	個

イ 調査項目の具体的な内容（調査結果は「別紙2」）

① 調査項目の具体的な内容の対象とした事項

- ・ 調査研究事項のc及びd、eとの関連で、次の事項について具体的に調査研究する。
- c 「鑑賞」に関して「工芸の作品」について取り扱っている事項では、生徒作品や作家の作品、伝統的な工芸作品を含むすべての「工芸の作品」を調査し全体的に把握できるようにする。
- d 「鑑賞」で「生活や社会の中の工芸の働き」及び「工芸の伝統と文化」について取り扱っている事項として、写真とその解説についてはそれぞれ1箇所として調査し、より詳細な調査研究ができるように設定した。

② 調査対象事項を設定した理由等

- ・ 学習指導要領に「日本の工芸の特質や美意識を感じ取り、工芸の伝統と文化について考え、見方や感じ方を深めること」とされているため、「鑑賞」に関して「工芸の伝統と文化」について取り扱っている事項について調査する。
- ・ 学習指導要領に、内容の範囲や程度等を示す事項は、当該科目を履修する全ての生徒に対して指導するものとする内容の範囲を示したものであり、学校において必要がある場合には、この事項にかかわらず指導することができるため、発展的な内容を取り上げている箇所について調査する。

<その他>

- * 防災や自然災害の扱い
- * オリンピック、パラリンピックの扱い

(2) 構成上の工夫（調査結果は「別紙3」）

- ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫
- ② ユニバーサルデザインの視点
- ③ デジタルコンテンツの扱い

「別紙1」 【(1) 内容 ア 調査研究の総括表】 (芸術 工芸)

調査項目	a		b		c		d		e		f		g			
	個	%	個	%	個	%	個	%	個	%	個	%	個	%		
	と「表現」を扱う題材数		の「表現」を扱う箇所数		「鑑賞」で「工芸の作品」を扱う箇所数		「鑑賞」で「生活や社会の中の工芸の働き」を扱う箇所数		「鑑賞」で「工芸の伝統と文化」を扱う箇所数		「鑑賞」で「日本の工芸も重視して扱う」とも「アジアをはじめとする諸外国の工芸」の箇所数		発展的な内容を取り上げている箇所数			
発行者	教科書番号	教科書名	個	%	個	%	個	%	個	%	個	%	個	%		
日文	701	工芸 I	6	2.4	45	18.1	133	53.6	10	4.0	29	11.7	9	3.6	16	6.5
平均値			6.0	2.4	45.0	18.1	133.0	53.6	10.0	4.0	29.0	11.7	9.0	3.6	16.0	6.5

(全体のページ数) (全体の個数)

46 248

・aからgの割合については、全体の個数に対する該当の個数の割合を、小数第2位を四捨五入した値である。

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 発行者 日文・116】(芸術 工芸)

c. 美術作品などの数				
作品名	作者名	画材・素材	年代	掲載されているページ
1 アフリカのひょうたん(大)		ひょうたん		3
2 ウブル(クバの籠)		クバ		3
3 ウスアカネアワビ		ウスアカネアワビ		3
4 竹(大)		竹		3
5 竹(小)		竹		3
6 韓国のひょうたん		ひょうたん		3
7 亀の甲羅		亀		3
8 帆立貝		帆立貝		3
9 蔭の柄杓		蔭		3
10 バナナの葉		バナナの葉		3
11 ダチョウの卵		ダチョウの卵		3
12 蟹の甲羅		蟹		3
13 ココナッツの実		ココナッツ		3
14 アフリカのひょうたん(小)		ひょうたん		3
15 人の手		手		3
16 素描 変わり皿弁花中皿	富本憲吉	鉛筆・紙	制作年不詳	4
17 色絵四弁花文角飾筥	富本憲吉	磁器	1940	4
18 友禅訪問着 雨あがり	菅原高幸	絹	2018	5
19 朧銀花器 つくばね	広沢隆則		2005	5
20 切金螺鈿箱 青麦		檜・金板・銀板・白蝶貝	2018	5
21 合わせ櫛目花籃 祥風時雨	久富夢庵		2018	5
22 乾漆螺鈿天牛箱	しんたにひとみ		2018	5
23 大分県別府竹細工				6
24 滋賀県信楽焼				6
25 佐賀県有田焼				6
26 沖縄県喜如嘉の芭蕉布				6
27 徳島県阿波藍				6
28 青森県木通蔓細工				7
29 北海道二風谷アットウシ				7
30 岩手県浄法寺塗				7
31 岩手県南部鉄器				7
32 埼玉県小川和紙				7
33 桂離宮			17世紀前半	10
34 日光東照宮 陽明門			17世紀前半	10
35 背付きコノイドベンチ	ジョージ・ナカシマ	ブラックウォールナット	1990	11
36 金継ぎ				11
37 黒織部茶碗 銘 わらや			17世紀初期	11
38 民芸品の狐				11
39 革製品				11
40 漏斗		アルマイト		12
41 すり鉢		陶器		12
42 すりこぎ		山椒		12
43 鯉節削り器		木・刃・SK特殊鋼		12
44 鮫肌おろし		木・本鮫皮		12
45 おろし金		ステンレス		12
46 エッグスライサー		アルミニウム・ステンレス		12
47 エッグスライサー		ステンレス		12
48 金鋸		炭素鋼・木		12
49 六角レンチセット		特殊合金鋼		12
50 カップスリーブ		パルプ		12

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 発行者 日文・116】(芸術 工芸)

c. 美術作品などの数				
作品名	作者名	画材・素材	年代	掲載されているページ
51 糸通し		アルミニウム・ステンレス		12
52 セル巻き指ぬき		本革・PVC樹脂		12
53 皿付指ぬき		真鍮		12
54 長針用指ぬき		本革		12
55 牛乳瓶の蓋開け		プラスチック・金属		12
56 瓶の蓋あけ		鉄にクロームメッキ・エラストマー樹脂		12
57 彩黒花器	高森絢子	手びねり・象嵌	2014	14
58 自在深山鍬形	満田晴穂	銅・真鍮・青銅	2015	14
59 りんご染め(着尺)	小岩井良馬	絹	2017	15
60 こぼしにくいコップシリーズ	矢島里佳	栃・漆・土・琉球ガラス	2013	15
61 色樹		ウォールナット・楢・メープルチェリー	2008	16
62 曲物・大館曲げわっぱ 小判弁当(大・中)		秋田杉・桜皮		18
63 ウィンザーチェア		楢		18
64 寄木小箱	フジタマリ	黄檗・樺・神代楢・桐・チェリー・栃・ブラックウォールナット	2019	18
65 やじろべえ ジョッキー		唐檜		18
66 根付 眠り猫	阪井正美	黄楊	1991	18
67 レンゲ、カレースプーン	加藤良行	ウォールナット・桜		18
68 ラーメン用マイ箸・自分の手に合わせたマイ箸				19
69 ギタリストが座るスツール	田中満治	栗・樺	2018	19
70 合鹿椀 朱塗	角偉三郎	樺・漆	2003	20
71 螺鈿				21
72 蒔絵				21
73 沈金				21
74 彫漆				21
75 拭き漆				21
76 螺鈿紫檀五絃琵琶		木竹工	天平時代以前	21
77 赤色漆塗楯		藪椿・弁柄・総赤色漆	紀元前4236～	21
78 片口 玉子型 大槌目 紫金色		銅・鍛金		22
79 蓮葉に蛙皿	正阿弥勝義	素銅・平象嵌(金)	19世紀後半～	24
80 ピコリーノ(小鳥付き車止めアーチ)	村中保彦	アルミ鋳物・ステンレス		24
81 ねている子供河馬	村中保彦	ステンレス		24
82 杓目銅ネックレス	千貝弘	銀・銅・黒味銅		24
83 鍛金笹皿	中村三喜雄	黄金・真鍮・錫	2012	24
84 金銅透彫箱 鴨跖草と蝶	増田三男	真鍮・鍍金・木	1971	24
85 イルカスプーン		真鍮・錫引き	2019	25
86 猫のスマートフォン置き		銅・鍛金・錫引き・硫化仕上げ	2019	25
87 陶器				26
88 磁器				26
89 布志名焼 角皿		陶器		28
90 小鹿田焼 カップ&ソーサー		陶器		28
91 コーヒーカップ	川口淳	磁器		28
92 丹波立杭焼 カップ&ソーサー		陶器		28
93 パスタ皿「フラッグ」	ハラダマホ	陶器		28
94 ザムザ氏の散歩	八木一夫	轆轤成形	1954	28
95 ファンシーカップ	森正洋			28
96 猿のカップ&ソーサー		ひもづくり	2018	29
97 ヨットハーバーのカフェで紅茶を飲むためのカップ&ソーサー		板づくり	2018	29
98 型染布 ジャイプルの朝	柚木沙弥郎	紬	1983	32
99 松に柳桜と藤と水辺花鳥文様紅型(踊衣裳)	城間栄喜	絹	1955	32
100 加賀友禅工芸スニーカー		綿・友禅		32

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 発行者 日文・116】(芸術 工芸)

c. 美術作品などの数				
作品名	作者名	画材・素材	年代	掲載されているページ
101 有松鳴海絞 日傘				32
102 時空	福本潮子	亜麻	1989	32
103 久留米緋 ガマロ		綿		32
104 ランチョンマット		木綿・藍・型染め		33
105 青森の木通蔓細工の籠(あけびつる)		木通(あけび)		34
106 竹華器 怒濤	生野祥雲斎	竹	1956	34
107 岩手の鳥越竹細工		竹		34
108 長野の鳩車		木通		34
109 身の回りの小物を入れておく籐籠		籐		35
110 はなかざり	常信明子	銅・銀・有線七宝	2018	36
111 桜蝶図平皿	並河靖之	有線七宝	19世紀後半～	36
112 ブローチ 翼のある風の精	ルネ・ラリック	金・七宝・ダイヤモンド	1898	36
113 七宝富嶽図額	濤川惣助	無線七宝	1893	36
114 自分のための装飾品(ブローチ)	岩田広己	有線七宝		37
115 褐釉蟹貼付台付鉢	初代宮川香山	陶器	1881	38
116 色絵金彩菊図双耳花瓶		陶器・瑠璃引き	20世紀初期(明治)	38
117 花瓶梅図漆絵	柴田是真	紙本漆絵	1881	38
118 鷺置物	鈴木長吉	青銅・蠟型鑄造・金・象嵌	1893	38
119 富嶽百景二編のうち竹林の不二	葛飾北斎	紙・絵本	1836	38
120 竹図花瓶		ガラス	1878	38
121 手仕事の日本	芹沢銈介	冊子・小間絵	1948	39
122 青釉白黒流猫大鉢	濱田庄司	陶器・釉薬・轆轤	1951頃	39
123 白地草花絵扁壺	河井寛次郎	陶器・釉薬・型成形	1939	39
124 福の字のれん	芹沢銈介	木綿・型染め	1955頃	39
125 蛸図大皿	バーナード・リーチ	陶土・炆器・轆轤成形	1925	39
126 いちご泥棒	ウィリアム・モリス		1883	39
127 紙コップ		紙		46
128 ガラスのコップ		ガラス		46
129 焼き物のコップ		磁器		46
130 曜変天目(稲葉天目)		陶器	12～13世紀	46
131 折りたたみ式のシリコーンゴムのコップ		シリコーンゴム		47
132 金属のコップ		銅		47
133 奈良三彩 夫婦湯呑のうち婦	加藤卓男	陶器		47

「別紙2-3」【オリンピック、パラリンピックの扱い】(芸術 工芸)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方 (本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
日文	701	工芸 I	無			

「別紙2-2」 【防災や自然災害の扱い】（芸術 工芸）

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方 (本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
日文	701	工芸 I	無			

「別紙3」【(2)構成上の工夫】(芸術 工芸)

発行者	教科書番号	教科書名	構成上の工夫
日文	701	工芸 I	<p>①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 複数名でアイデアや発想したこと、考察したことを話し合う様子が写真で図示されており、実際に制作に入る前に、スケッチ、図面、模型などを用いて他者から意見をもらうことの重要性が示されている。アイデアを形にしていくプロセスが文章と図で分かりやすい工夫がなされている。</p> <p>②ユニバーサルデザインの視点 鑑賞と演習を題字の他にマークを使って視覚的に分けている。本文は題材ごとに主張色を決めて頁の配色をまとめており、見やすさへの配慮がなされている。 重いものを運ぶための道具や装着具が紹介されており、誰でも使えて課題が解決できる方法が示されている。</p> <p>③デジタルコンテンツの扱い ものづくりを変える3Dプリンターの可能性について解説されている。 二次元コードを配して、その題材についてさらに情報を得ることができるようにしており、紙面では伝えきれない情報量を効果的に追加している。</p>

